

第86図 Tr12

Tr12(第86図、PL.53)

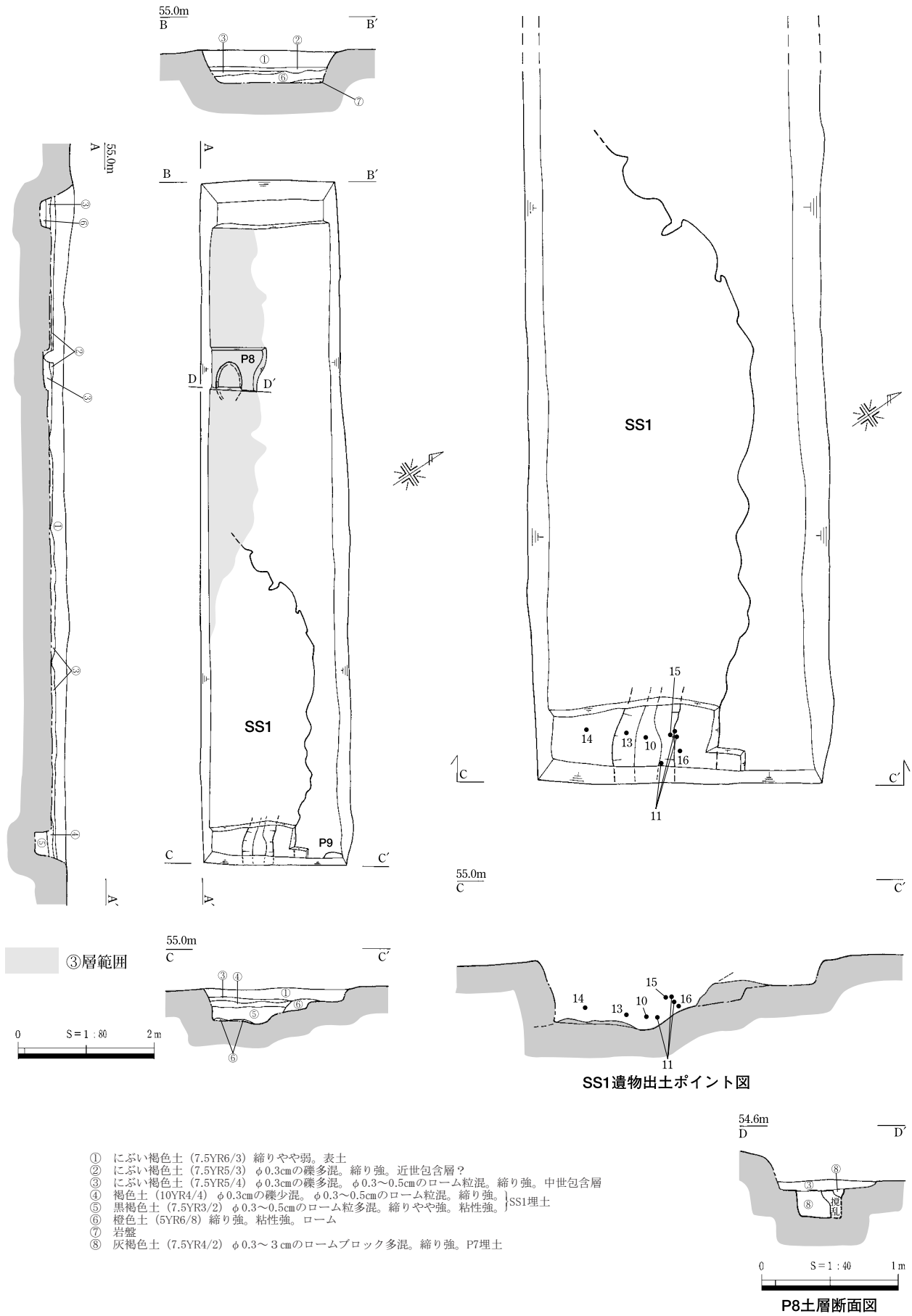
丘陵上に営まれる畑地に設定し、調査した。①層は耕作土、②層は造成土である。②層直下のローム上に遺構検出面を確認した。包含層は認められない。以下、検出した遺構について概要を述べる。

ローム直上においてSK2を検出した。平面楕円形を呈し、長軸約87cm、短軸約61cmを測る。埋土は黒褐色土が主体となし、深さは約48cmを測る。遺物の出土はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

Tr13(第87～90図、表30、PL.54・56)

丘陵西側斜面のテラス状の地形に設定した。調査した結果、遺構検出面は1面(⑥層上面)であること、③層は中世の包含層であることを確認した。なお、①・②層からは近世のものと考えられる陶磁器が出土しているが、調査時には①・②層を一括して掘り下げを行ったため、層位的な遺物の取り上げができなかった。①層は土壌化しており、表土として扱って差し支えないが、②層が近世の包含層である可能性は残る。以下、検出した遺構SS1、P8・9について概要を述べる。

SS1、P8・9を⑥層直上で検出した。SS1は、埋土は褐色土と黒褐色土であり、検出面からの深さは約34cmである。サブトレンチによる堆積状況の確認に留めたため、底面ピットの有無は不明であるが、サブトレンチ内に壁溝の可能性のある溝状の落ち込みを確認した。埋土中より、土師器甕(10・15・16)、須恵器蓋(11・12)、須恵器甕片(13)、須恵器高坏脚(14)が出土した。遺構の帰属時期は、

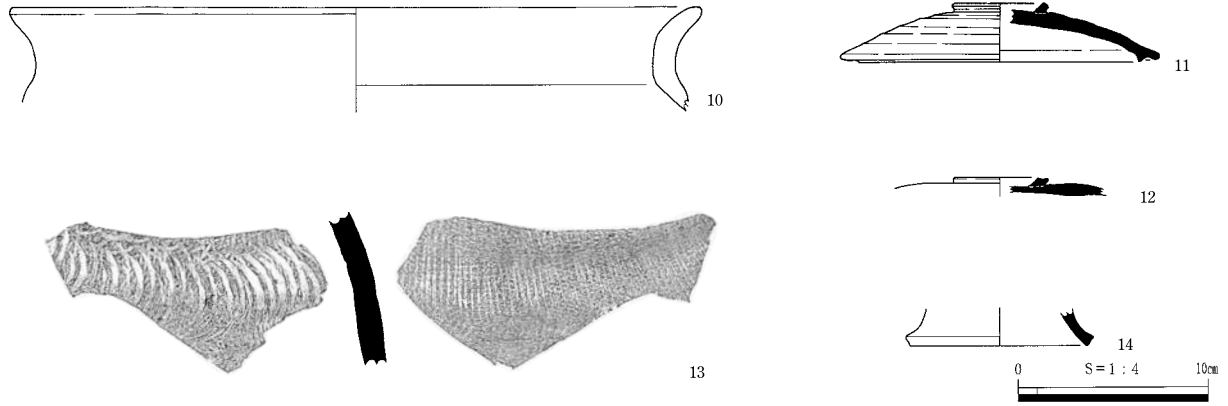


第87図 Tr13

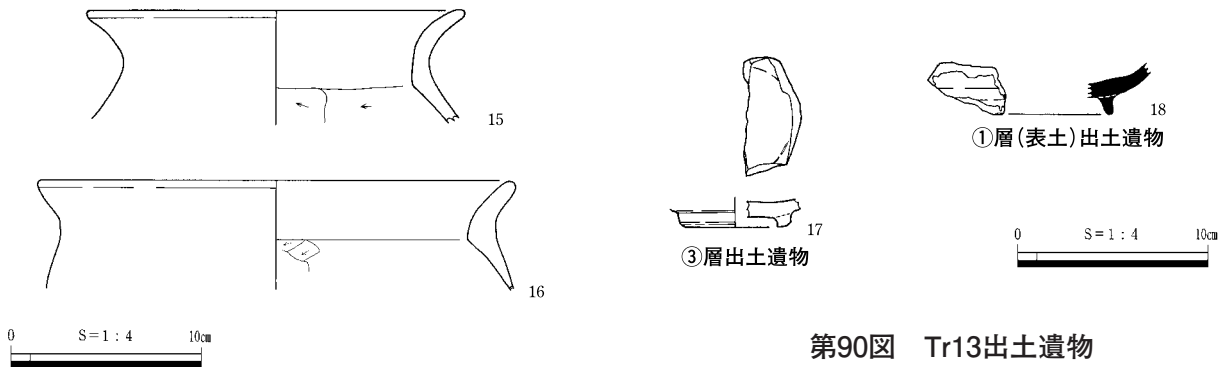
出土遺物の年代観から古代(8世紀代)と考えられる。

P8は、平面楕円形を呈すと思われる。短軸約37cm、深さは約23cmを測り、埋土は灰褐色土の単層である。埋土中より土師器片が出土している。本遺構は出土遺物からの詳細な年代比定は困難であるが、古墳時代後半から古代の間に取まるものと思われる。

P9については検出にとどめたため、詳細は不明である。



第88図 Tr13⑤層出土遺物



第90図 Tr13出土遺物

第89図 Tr13④層出土遺物

表29 倉谷西中田遺跡土器観察表(1)

No.	トレンチ 遺構名 層位名	挿図 PL.	種類 器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	Tr 1 SD 1 埋土下層	第81図 PL.55	陶器 播鉢	口径27.0※ 器高3.2△	外面口クロナデ。口縁端部タガ貼付。 内面口クロナデ。口縁端部おろし目。	密	良	内外面暗赤褐色	
2	Tr 1 SD 1 埋土上層	第81図 PL.55	須恵質 土器 播鉢	器高2.1△	外面体部ナデ。底部粗いナデ。 内面ナデ。体部下位7条以上のおろし目。	密 (砂粒を多く 含む。)	良	内外面黄灰色	
3	Tr 1 SD 1 埋土上層	第81図 PL.55	土師器 坏	底径5.4※ 器高1.55△	外面回転ナデ。底部回転糸切り後粗いナデ? 内面回転ナデ。	密	良	外面淡黄褐色 内面明褐色	
4	Tr 2 SD 3 埋土	第82図 PL.55	土師器 坏	口径11.8※ 底径6.0※ 器高4.1	外面回転ナデ。底部回転糸切り後粗いナデ? 内面回転ナデ。	密	良	内外面淡黄褐色	
5	Tr 2 SD 3 埋土	第82図 PL.55	瓦質土器 羽釜	口径31.4※ 器高8.8△	外面口縁部ナデ、タガ貼付。体部粗いナデ。 内面ナデ。	密 (0.5~2.0mm の白色砂粒を 含む。)	良	外面灰色~暗灰色 内面灰白色~暗灰色	6と同一個体か。

表30 倉谷西中田遺跡土器観察表(2)

No.	トレンチ 遺構名 層位名	挿図 PL	種類 器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
6	Tr 2 SD 3 埋土	第82図 PL.55	瓦質土器 羽釜	底径21.0※ 器高4.3△	外面体部粗いナデ。底部ナデ。 内面ナデ。	密 (0.5～2.0mm の白色砂粒を 含む。)	良	外面黒褐色 内面浅黄色	5と同一個体か。
7	Tr 2 遺構外 ⑬層	第82図 PL.55	陶器 鉢	器高2.8△	内外面ロクロナデ。	密	良	内外面赤褐色	
8	Tr 5 遺構外 ⑥層	第85図 PL.55	弥生土器 甕	器高3.6△	外面口縁端面7条沈線。口縁部ナデ。風化が著しい。 内面ナデ。	密	良	外面浅黄色 内面浅黄褐色	
9	Tr 5 遺構外 ③・④層	第85図 PL.55	須恵器 甕	器高6.5△	外面格子目タタキ。 内面ハケ後ナデ。	密	良	内外面灰色	
10	Tr13 SS 1 ⑤層	第88図 PL.56	土師器 甕	口径36.4※ 器高5.5△	外面ナデ。 内面口縁部ナデ。体部ケズリか? 風化が著しい。	密	良	外面灰褐色 内面にぶい橙色～橙 色	
11	Tr13 SS 1 ⑤層	第88図 PL.56	須恵器 蓋	口径14.8※ 器高3.1	外面回転ナデ。輪状つまみ貼付。 内面回転ナデ後不定方向のナデ。	密	良	外面灰色 内面褐色	つまみ径5.15※
12	Tr13 SS 1 ⑤層	第88図 PL.56	須恵器 蓋	口径11.4※ 器高1.0△	外面回転ナデ。輪状つまみ貼付。 内面回転ナデ。	密 (砂粒を多く 含む。)	良	内外面灰色	つまみ径5.0※
13	Tr13 SS 1 ⑤層	第88図 PL.56	須恵器 甕	器高8.2△	外面平行タタキ後カキメ。 内面タタキ。	密	良	内外面青灰色	
14	Tr13 SS 1 ⑤層	第88図 PL.56	須恵器 高坏	底径9.4※ 器高2.0△	内外面脚部回転ナデ。	密	やや 不良	外面褐色 内面にぶい黄褐色	
15	Tr13 SS 1 ④層	第89図 PL.56	土師器 甕	口径19.9※ 器高6.0△	外面ナデ。風化している。 内面口縁部ナデ。体部ケズリ。	密	良	内外面浅黄褐色	
16	Tr13 SS 1 ④層	第89図 PL.56	土師器 甕	口径25.2※ 器高5.8△	外面口縁部ナデ。風化が著しい。 内面口縁部ナデ。体部ケズリ。風化が著しい。	密	良	外面にぶい橙色 内面橙色	
17	Tr13 遺構外 ③層	第90図 PL.56	青磁? 碗	底径5.5※ 器高1.4△	外面高台部上位施釉。下位～底部露胎。 内面施釉。	密	良	外面黄灰色 内面浅黄色	被熱により、釉が 変質か?
18	Tr13 遺構外 ①層(表土)	第90図 PL.56	須恵器 高台坏	器高2.8△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ後不定方向のナデ。	密 (1.0mm前後の 白色砂粒を含 む。)	良	外面暗灰色 内面灰色	

表31 倉谷西中田遺跡石器観察表

No.	トレンチ 遺構名 層位名	挿図 PL	種類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	備考
S 1	Tr 1 SD 1 埋土	第81図 PL.56	砥石		12.25	8.35	2.65	400	
S 2	Tr 2 SD 3 埋土中	第82図 PL.56	剥片	瑪瑙	1.3	1.65	0.6	1.1	背面下端に下方からのつぶれ。背腹両面に上下方向からの加 撃。剥離痕を残すことより、両極剥離が施されたものか。

第5節 倉谷荒田遺跡の調査

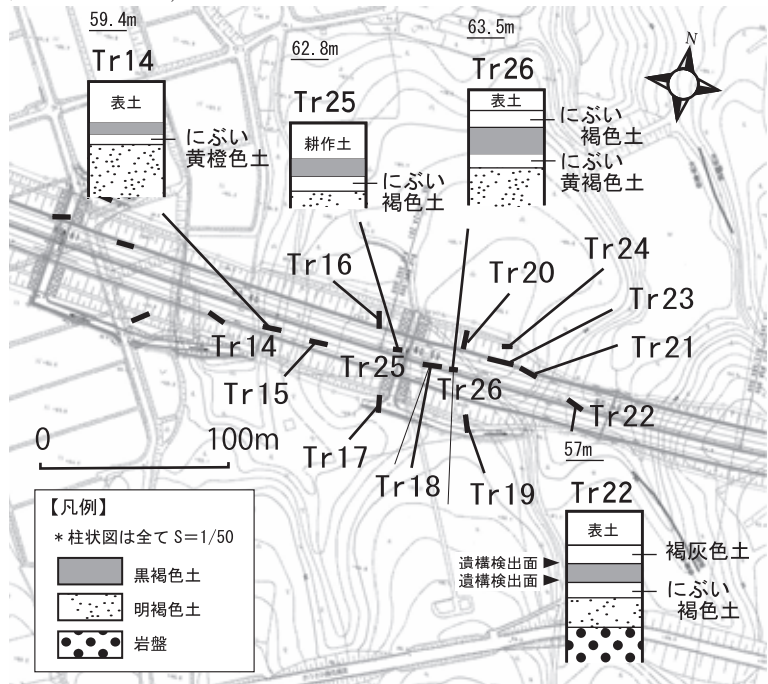
調査地点 大山町倉谷字荒田835他

調査期間 平成20年8月10日～平成20年10月6日

調査面積 236㎡

調査概要 (第91・92・94図、表32～35、PL.57～60)

倉谷荒田遺跡は、大山北麓から日本海へ向けて派生する丘陵上及び小規模な谷部に所在する。地表面の標高は、約56～64mである。地目は、山林・畑地・原野である。調査は、開発予定



第91図 倉谷荒田遺跡トレンチ位置図及び基本層序

表32 遺構名新旧対照表

トレンチ名	新遺構名	旧遺構名
Tr21	SS 1	SS 3
	SD 1	SD 6
	SD 2	SD 8
	SK 1	SK 3
Tr22	P 1	P10
Tr23	SI 1	SI 1
	SK 2	SK 4
	SK 3	SK 5
Tr24	SI 2	SI 2
	SK 4	SK 6

表33 倉谷荒田遺跡トレンチ一覧

トレンチ名	規模 (m)	面積 (㎡)	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物			確認した遺構面数等	遺構検出層位
			遺構名	出土遺物	遺構の時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期		
Tr14	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr15	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr16	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr17	2×10	20	-	-	-	-	-	-	①・②層 (耕作土)	瓦	近世以降	-	-
Tr18	2×10	20	-	-	-	③層 (黒褐色土)	土師器	古墳時代?	①・②層 (表土)	弥生土器・土師器 石鏃・黒曜石薄片	弥生時代後期～古墳時代前期	1層2面	-
Tr19	2×10	20	-	-	-	-	-	-	①・②層 (表土)	弥生土器・土師器 瓦質土器	弥生時代～中世	1層2面	-
Tr20	2×10	20	-	-	-	-	-	-	①・②層 (表土)	弥生土器・土師器	弥生時代後期～古墳時代前期	1層2面	-
Tr21	2×10	20	SS 1	-	-	⑤層 (黒褐色土)	土師器	古墳時代?	①～③層 (表土)	弥生土器・土師器	弥生時代～古墳時代	1層2面	⑤?・⑨・岩盤層上面
			SD 1	-	-								
			SD 2	-	-								
			SK 1	-	-								
Tr22	2×10	20	P 1	-	-	③層 (黒褐色土)	土師器・鉄滓	古墳時代	①層 (表土)	鉄滓	不明	1層2面	③・④層 上面
									②層 (表土?)	須恵器	古墳時代後期		
									①～③層 (表土～黒褐色土)	土師器	古墳時代?		
Tr23	2×14	28	SI 1	土師器	古墳時代前期	⑤層 (黒褐色土)	弥生土器・土師器	古墳時代前期	表土	弥生土器・土師器 鉄滓	弥生時代後期～古墳時代前期	1層2面	⑤?・⑫層 上面
			SK 2	-	-								
			SK 3	-	-								
Tr24	1.5×6	9	SI 2	弥生土器・土師器	古墳時代前期	④層 (黒褐色土)	弥生土器・土師器・鉄器	古墳時代前期	表土	土師器	古墳時代前期	1層2面	-
			SK 4	-	-								
Tr25	2×5	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr26	1.5×6	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1層2面	-
面積合計		236											

地に13本のトレンチを設定し行った。最大2面の遺構検出面を確認し、竪穴住居跡2棟・段状遺構1基・溝状遺構2条・土坑4基・ピット1基を検出した。また、古墳時代前期の包含層を1層確認している。遺物は縄文時代～中世にかけての土器のほか、石器(石鏃)、鉄滓などが出土し、遺跡が現存することを確認した。各トレンチの詳細については、表33を参照していただきたい。以下、遺構を検出したトレンチについて報告を行う。

Tr21(第93図、PL.58)

Tr21は丘陵東側の傾斜変換点に設定した。段状遺構1基、溝状遺構2条、土坑1基を検出し、これらの遺構は、⑨層(にぶい黄褐色土)及び岩盤層を遺構検出面とする。⑤層(黒褐色土)は、古墳時代とみられる包含層である。以下、検出した遺構について概要を述べる。

SS1は、岩盤層(地山)上面において検出した。埋土最下層はにぶい黄褐色土であり、上層に黒褐色土(⑤層)が埋まる。検出面からの深さは、約30cmを測る。ピット等の底面施設は検出していない。埋土最下層からは、遺物は出土していない。Tr21の堆積状況から判断して、本遺構は古墳時代以前に埋没したものとする。

SD1は、⑨層上面において検出した。主軸は34°西偏し、深さは約9cmである。埋土は黒褐色土の単層である。遺物は出土していない。本遺構の帰属時期は、Tr21の堆積状況から判断し、古墳時代以前と考える。

SD2は、岩盤層上面において検出した。主軸は13°東偏し、等高線に並行している。深さは45cmを測り、埋土は暗褐色土の単層である。遺物は出土していない。本遺構の帰属時期は、Tr21の堆積状況から判断して、古墳時代以前と考える。

SK1は、岩盤層上面において検出した。径は約1m、深さ約35cmを測る。埋土は暗褐色土の単層である。遺物は出土していない。本遺構の帰属時期は、Tr21の堆積状況から判断して、古墳時代以前と考える。

Tr22(第95図、表34、PL.58・60)

Tr22は、丘陵東側の小規模な谷地形に設定した。③層(黒褐色土)上面を遺構検出面とし、ピット1基を検出した。③層は古墳時代前期の包含層である。③層からは、土師器甕(4)、土師器高坏(5)のほか、縄文土器(3)も出土した。

②層(褐灰色土)は遺存状況が悪く、調査時には表土と一括して掘り下げた。しかしながら、②層より、古墳時代後期から古代に帰属すると思われる須恵器甕(6)が出土した。よって、僅か1点のみの出土ではあるが、②層が古墳時代後期以降の包含層である可能性も残る。以下、検出した遺構について概要を述べる。

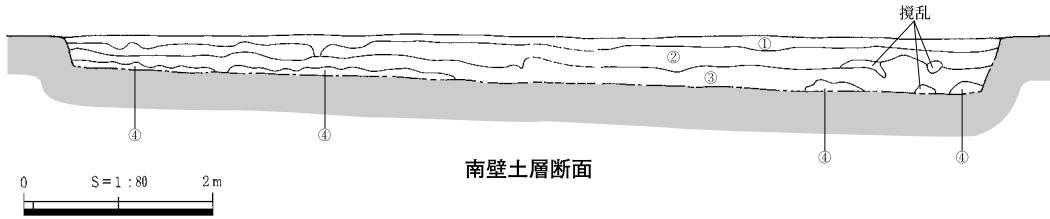
P1は、③層上面において検出した。長軸約47cm、短軸約35cm、深さ約60cmを測る。遺物は出土していない。本遺構の帰属時期は、検出面から判断して、古墳時代前期以降と考える。

Tr23(第97図、表34、PL.59・60)

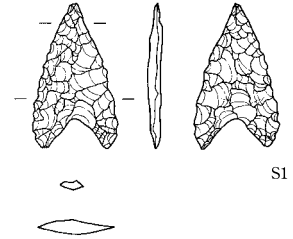
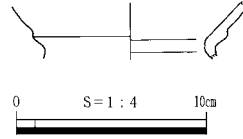
Tr23は、丘陵東側緩斜面に設定した。⑫層(にぶい黄褐色土)上面を遺構検出面とし、竪穴住居跡1棟、土坑2基を検出した。また、⑤層(黒褐色土)が古墳時代前期の包含層であることを確認した。以下、検出した遺構について概要を述べる。

SI1は⑫層上面において検出した。調査はサブトレンチ掘削による、埋土の堆積状況の確認に留めた。平面円形を呈し、規模は径約5.5m、深さは約52cmを測る。床面施設は検出していない。埋土は

63.4m

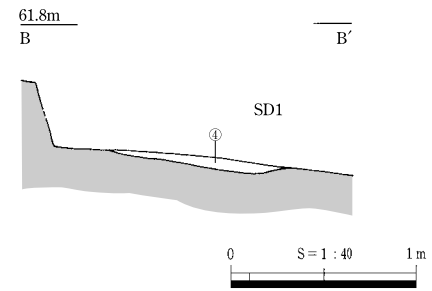
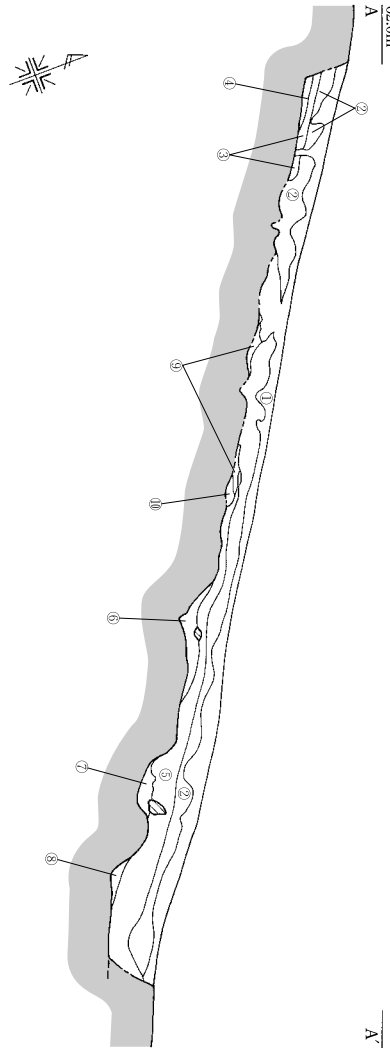
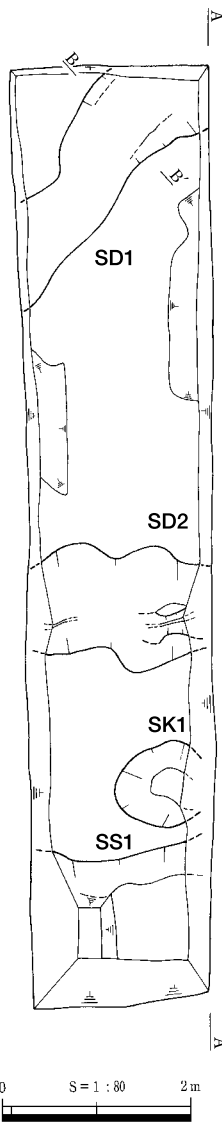


- ① 腐葉土 表土
- ② にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 縮りやや弱。表土
- ③ 黒褐色土 (7.5YR3/1) 縮りやや強。粘性強。古墳時代包含層
- ④ にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 縮りやや強。ローム漸移層



表土出土遺物

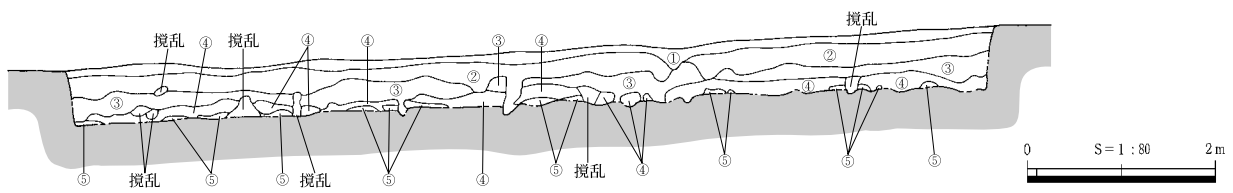
第92図 Tr18



- ① 腐葉土 表土
- ② にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 縮りやや弱。表土
- ③ 灰褐色土 (7.5YR4/2) 縮りやや弱。表土
- ④ 黒褐色土 (7.5YR3/1) 縮りやや弱。粘性強。SD1埋土
- ⑤ 黒褐色土 (7.5YR3/1) φ 0.3~1 cmの礫混。縮りやや弱。粘性強。古墳時代包含層
- ⑥ 暗褐色土 (7.5YR3/3) φ 0.3~1 cmの礫混。縮りやや弱。SD2埋土
- ⑦ 暗褐色土 (7.5YR3/3) 縮りやや弱。SK1埋土
- ⑧ にぶい黄褐色土 (10YR5/4) φ 0.5~4 cmのロームブロック混。縮りやや弱。SS1埋土
- ⑨ にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 縮りやや強。ローム漸移層
- ⑩ 明黄褐色土 (10YR6/8) 縮り強。ローム
- ⑪ 灰黄褐色土 (10YR4/2) 縮りやや弱。ローム

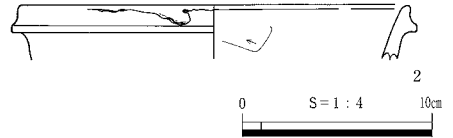
第93図 Tr21

64.0m



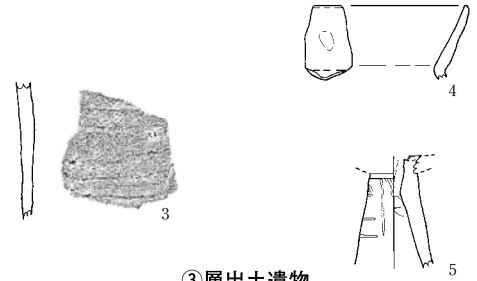
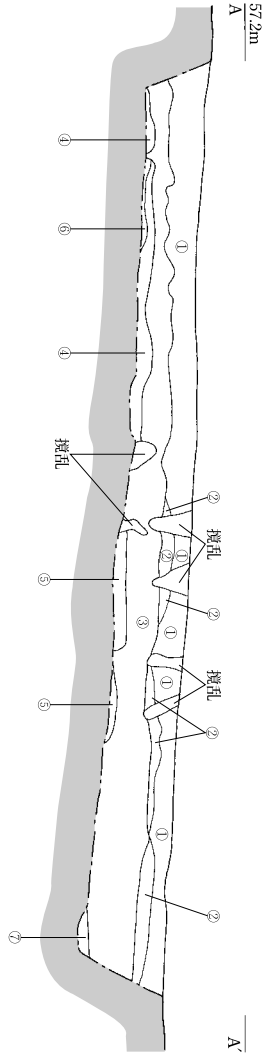
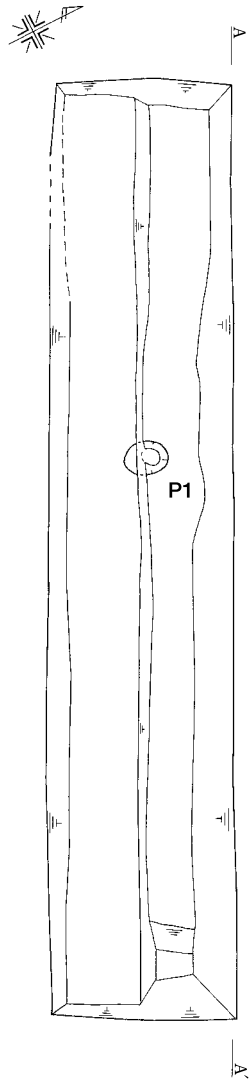
東壁土層断面

- ① 腐葉土 表土
- ② にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 締りやや弱。表土
- ③ 黒褐色土 (7.5YR3/1) 締りやや強。粘性強。表土
- ④ にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締りやや強。ローム漸移層
- ⑤ 明黄褐色土 (10YR6/8) 締り強。ローム



表土出土遺物

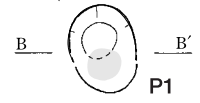
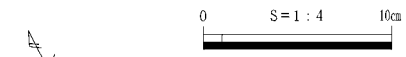
第94図 Tr19



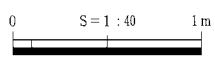
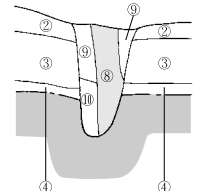
③層出土遺物



②層出土遺物



56.7m



柱痕跡

- ① 褐色土 (7.5YR4/3) 締りやや弱。表土
- ② 褐灰色土 (7.5YR4/1) 締りやや強。古墳時代後半～古代包含層?
- ③ 黒褐色土 (7.5YR3/1) φ 0.3～0.5cmの礫混。締り強。粘性強。古墳時代前期包含層
- ④ にぶい褐色土 (7.5YR6/3) 締りやや弱。ローム漸移層
- ⑤ 黒褐色土 (10YR3/2) φ 0.3～2cmの礫多混。締り強。
- ⑥ にぶい黄褐色土 (10YR6/4) 締り強。粘性強。ローム
- ⑦ 岩盤
- ⑧ 黒色土 (7.5YR2/1) 締り弱。粘性強。
- ⑨ 灰褐色土 (7.5YR5/2) 締りやや弱。粘性強。 } P1埋土
- ⑩ 灰黄褐色土 (10YR5/2) 締り強。

第95図 Tr22

褐色土であり、埋土中より7～12が出土した。出土遺物の年代観から、本遺構は古墳時代前期に帰属すると考える。

SK2は、⑫層上面において検出した。平面円形を呈すと推定でき、規模は径約2.2mを測る。埋土上層には、⑤層が埋まる。Tr23の堆積状況から判断し、本遺構の帰属時期は古墳時代前期以前と考える。

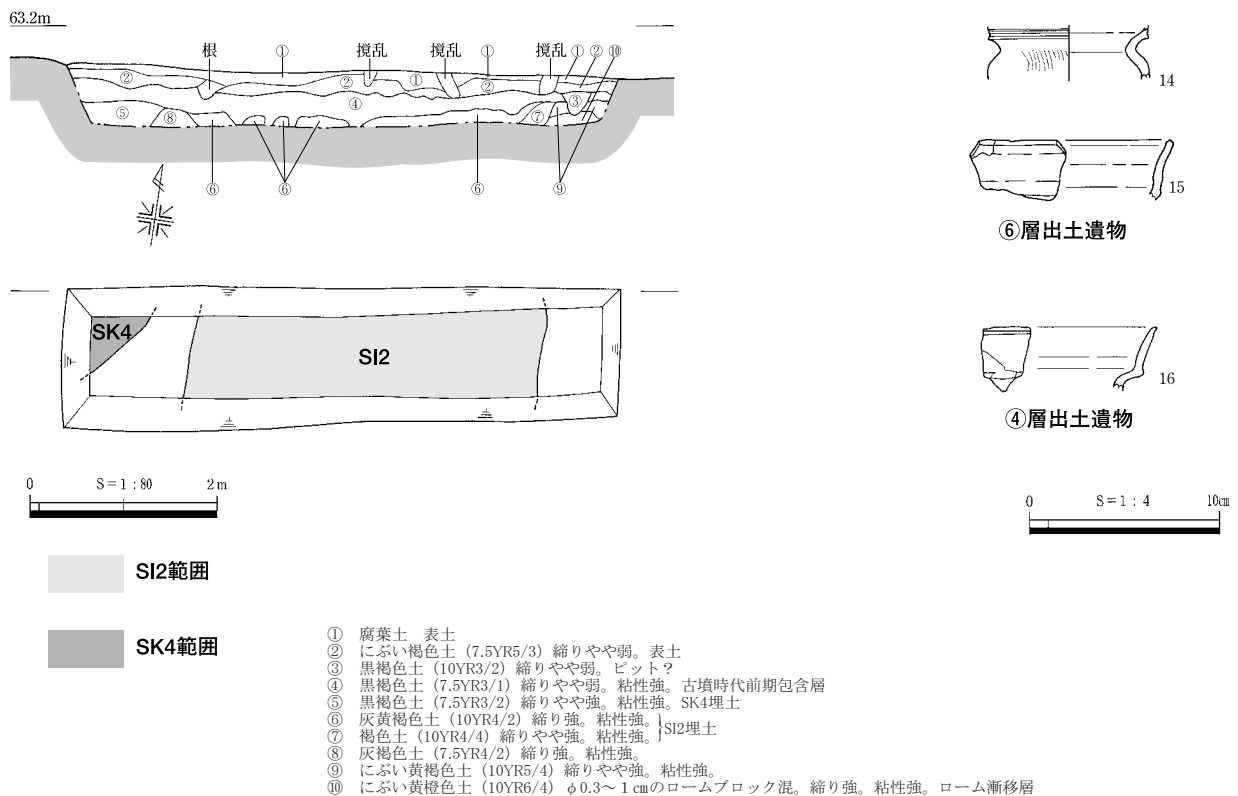
SK3は、⑫層上面において検出した。調査はサブトレンチ掘削による、埋土の堆積状況の確認に留めた。平面形は不明である。深さは約13cmを測り、埋土は黒褐色土と褐色土である。遺物は出土していない。本遺構の帰属時期は不明である。

Tr24(第96図、表34、PL.59・60)

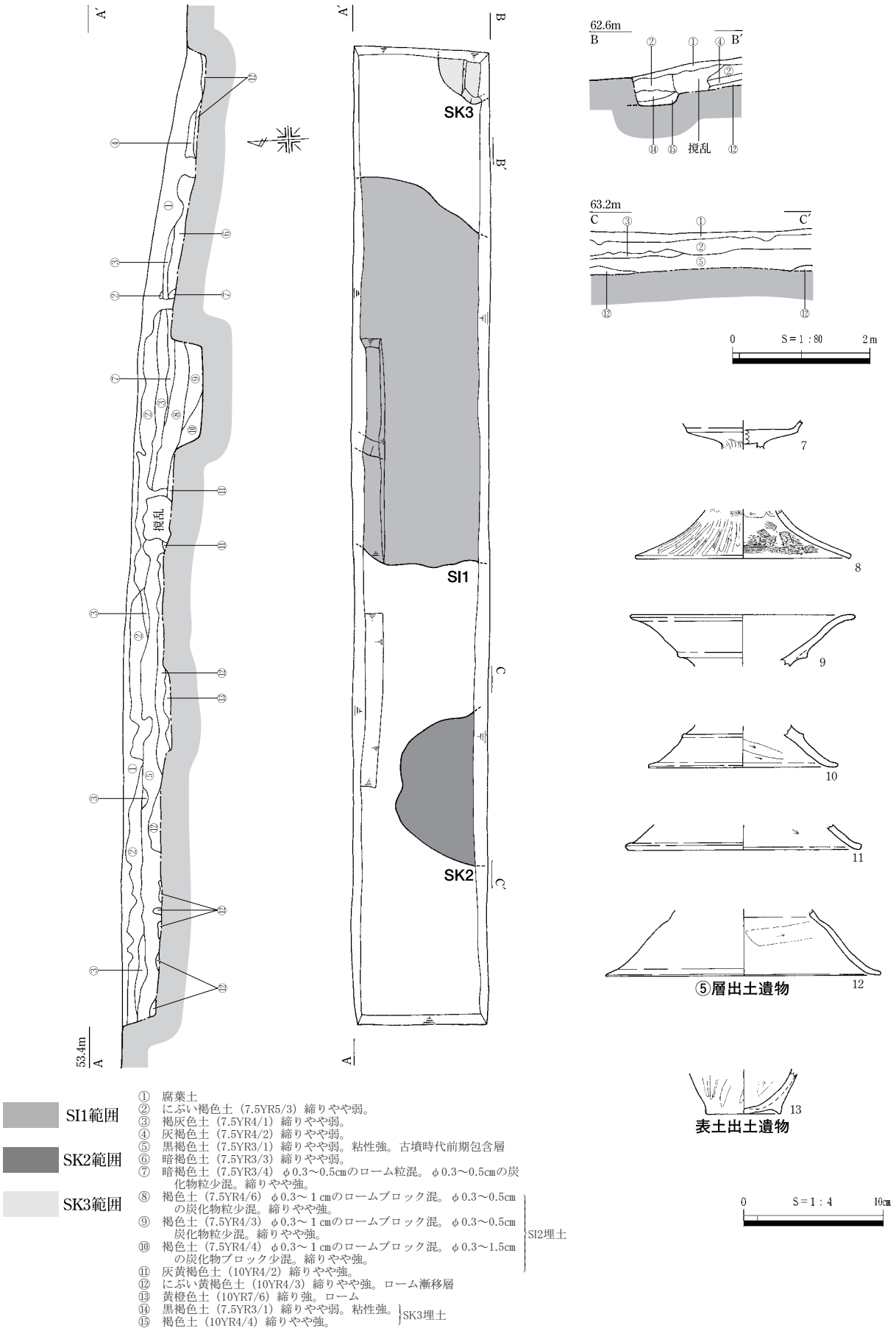
Tr24は丘陵上平坦面に設定した。トレンチ設定地点は、地表面が僅かではあるが播鉢状の凹地として認識できた。竪穴住居跡1棟、土坑1基を検出した。これらの遺構は、⑧層上面を遺構検出面とする。また、④層(黒褐色土)が古墳時代前期の包含層であることを確認した。以下、検出した遺構の概要を述べる。

SI2は、トレンチ中央部の⑧層上面において検出した。調査は検出に留めた。平面形は、一部のみの検出であるため不明である。検出した規模は最大長3.9mを測る。埋土は灰黄褐色土と褐色土である。埋土中より、小型壺(14)、甕口縁部と思われる小片(15)が出土している。本遺構の帰属時期は、出土遺物の年代観から判断し、古墳時代前期に帰属すると考える。

SK4は、トレンチ北西隅の⑧層上面において検出した。埋土は黒褐色土である。遺物は出土していない。本遺構の帰属時期は、Tr24の堆積状況から判断し、古墳時代前期以前と考える。



第96図 Tr24



第97図 Tr23

表34 倉谷荒田遺跡土器観察表

No.	トレンチ 遺構名 層位名	挿図 PL.	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	Tr18 遺構外 表土	第92図 PL.60	弥生土器 器台	器高3.0△	内外面ナデ。	密	良	内外面灰白色	
2	Tr19 遺構外 表土	第94図 PL.60	土師質 土器 羽釜	口径20.6※ 器高2.9△	外面ナデ。口縁部タガ貼付。 内面ケズリ後ナデ。	密	良	外面黒褐色 内面灰褐色	
3	Tr22 遺構外 ③層	第95図 PL.60	縄文土器 鉢	器高7.6△	外面胴部粗いナデ。 内面胴部ナデ。	密 (径約1～2mm の砂粒を多く 含む。)	良	外面明褐色 内面浅黄色	
4	Tr22 遺構外 ③層	第95図 PL.60	土師器 甕	器高3.9△	外面口縁部ナデ、指頭圧痕あり。 内面口縁部ナデ。	密 (砂粒を含む。)	良	内外面橙色	
5	Tr22 遺構外 ③層	第95図 PL.60	土師器 高坏	器高6.0△	外面脚部上位ハケ後ミガキ。下位ミガキ。 内面脚部ケズリ後ナデ。紋目あり。	密 (径約1～2mm の白色砂粒を 含む。)	良	内外面橙色	
6	Tr22 遺構外 ②層	第95図 PL.60	須恵器 甕	器高4.0△	外面頸部回転ナデ。胴部平行タキ後ナデ。 内面頸部回転ナデ。胴部同心円タキ。	密 (径約1mmの 白色砂粒を含 む。)	良	内外面灰色	
7	Tr23 遺構外 ⑤層	第97図 PL.60	土師器 高坏	器高2.0△	外面口縁部ナデ。脚部ハケ。 内面口縁部ナデ。風化が著しい。	密 (1mm程度の 白色砂粒を含 む。)	良	外面黄褐色 内面橙色	
8	Tr23 遺構外 ⑤層	第97図 PL.60	土師器 高坏	底径15.2※ 器高3.5△	外面脚部上位ハケ、下位ハケ後ミガキ。脚部 端部ミガキ後ナデ。 内面脚部上位ケズリ後ナデ、下位ハケ。脚部 端部ナデ。	密 (1mm程度の砂 粒を含む。)	良	内外面にふい黄褐色	
9	Tr23 遺構外 ⑤層	第97図 PL.60	土師器 器台	口径15.8※ 器高3.7△	外面受部ナデ、貼付突帯。風化が著しい。 内面ナデ。風化が著しい。	やや粗 (砂粒を含む。)	良	内外面黄褐色	
10	Tr23 遺構外 ⑤層	第97図 PL.60	土師器 器台	底径13.5※ 器高3.1△	外面脚部ナデ、貼付突帯。 内面脚部ケズリ。脚部端部ナデ。	密 (砂粒を含む。)	良	内外面にふい黄褐色	
11	Tr23 遺構外 ⑤層	第97図 PL.60	土師器 器台	底径16.7※ 器高1.85△	外面脚部ナデ。 内面脚部ケズリ。脚部端部ナデ。	密 (砂粒を含む。)	良	内外面にふい黄褐色～黒色	
12	Tr23 遺構外 ⑤層	第97図 PL.60	土師器 器台	底径19.8※ 器高4.7△	外面脚部ナデ。風化が著しい。 内面脚部ケズリ後ナデ。脚部端部ナデ。風化 が著しい。	密 (砂粒を含む。)	良	内外面黄褐色	
13	Tr23 遺構外 表土	第97図 PL.60	弥生土器 壺・甕	底径5.2※ 器高3.2△	外面胴部下位ミガキ。底部ナデ。 内面胴部下位ケズリ後ナデ。底部ナデ。	密	良	外面褐灰色～橙色 内面にふい黄褐色	
14	Tr24 SI 2 ⑥層	第96図 PL.60	弥生土器 小型壺	器高2.8△	外面口縁端面2条以上の沈線。口縁部ナデ。 頸部ハケ。胴部ナデ。 内面口縁～頸部ナデ。胴部ケズリ後ナデ。	密 (径2mm程度の 砂粒を含む。)	良	内外面浅黄褐色	
15	Tr24 SI 2 ⑥層	第96図 PL.60	土師器 壺・甕	口径11.6※ 器高4.1△	内外面口縁部ナデ。	密 (径1mm程度の 砂粒を含む。)	良	外面にふい黄褐色～橙色 内面橙色	
16	Tr24 遺構外 ④層	第96図 PL.60	土師器 甕	器高3.4△	内外面口縁部ナデ。	密	良	内外面浅黄褐色	

表35 倉谷荒田遺跡石器観察表

No.	トレンチ 遺構名 層位名	挿図 PL.	種類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	備考
S1	Tr18 遺構外 表土	第92図 PL.60	石鏃	黒曜石	2.9	1.7	0.3	1.2	表裏面とも素材面残さず、すべて加工痕。 側縁は鋸歯状に仕上げられる。特に表面左 側縁が顕著。

第6節 豊成上金井谷峰遺跡の調査

調査地点 大山町豊成字上金井谷峰1973-1他

調査期間 平成20年9月16日～平成20年10月16日

調査面積 222.9㎡

調査概要 (第98・100・101図、表36～39、PL.61～63)

豊成上金井谷峰遺跡は、大山北麓から日本海へ向けて派生する丘陵上及び小規模な谷地形に所在する。地表面の標高は、約62～70mである。地目は、山林と畑地である。調査は、開発予定地に12本のトレンチを設定し行った。最大2面の遺構検出面を確認し、段状遺構1基・溝状遺構1条・土坑3基・ピット1基を検出した。またTr1・2では、縄文時代のものと思われる包含層、Tr9では弥生時代後期と古墳時代前期の包含層を確認している。遺物は縄文時代から古墳時代にかけての土器のほか、石器(打製石鋏)、鉄滓などが出土し、遺跡が現存することを確認した。なお、各トレンチの詳細については、表37を参照していただきたい。

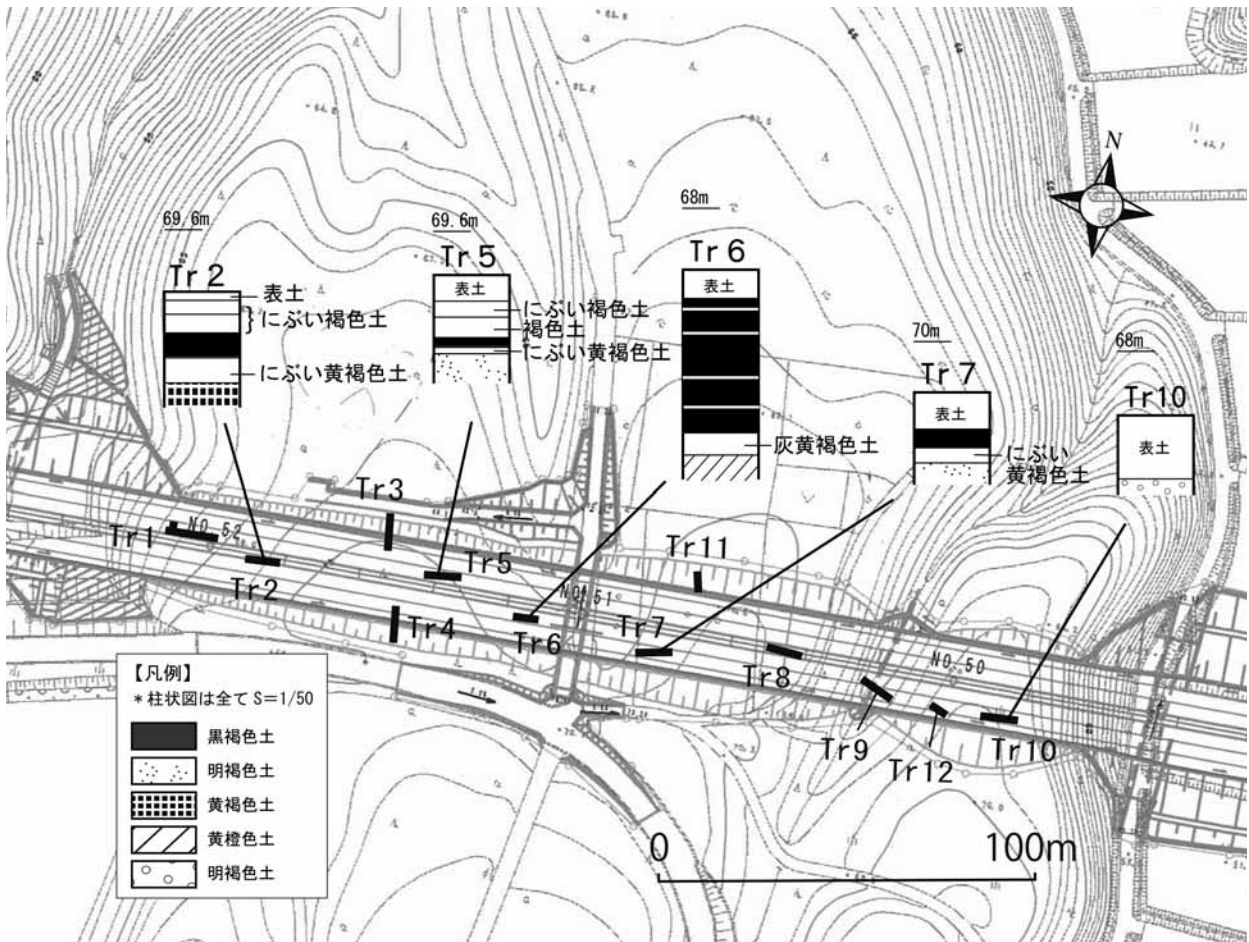
以下、遺構を検出したトレンチについて報告を行う。

Tr1 (第99図、PL.61)

Tr1は調査地西側の傾斜変換点に設定した。土坑3基を検出した。これらの遺構は、③層(にぶい褐色土)下面と⑦層

表36 遺構名新旧対照表

トレンチ名	新遺構名	旧遺構名
Tr1	SK1	SK1
	SK2	SK3
	SK3	SK4
Tr9	SD1	SD2
	P1	P1
Tr12	SS1	SS1



第98図 豊成上金井谷峰遺跡トレンチ位置図及び基本層序

表37 豊成上金井谷峰遺跡トレンチ一覧

トレンチ名	規模(m)	面積(m ²)	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物			確認した遺構面数等	遺構検出層位
			遺構名	出土遺物	遺構の時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期		
Tr 1	2×14.3 2×1.8	32.2	SK 1	-	-	③層(にぶい褐色土)	縄文土器・黒曜石・鉄滓	縄文時代?	①・②層(表土)	鉄滓	不明	2層2面	③・⑦層下面
			SK 2	-	-	④層(にぶい褐色土)	縄文土器?	縄文時代?					
			SK 3	-	-								
Tr 2	2×9.8	19.6	-	-	-	③層(にぶい褐色土)	土器・黒曜石	縄文時代?	①層(表土)	黒曜石	不明	2層2面	
			-	-	-	④層(黒褐色土)	黒曜石	不明					
Tr 3	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2層2面	
Tr 4	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2層2面	
Tr 5	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2層2面	
Tr 6	2×7	14	-	-	-	④層(黒褐色土)	石鍬	不明	-	-	-	2層2面	
Tr 7	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1面	
Tr 8	2×9.9	19.8	-	-	-	-	-	-	表土	弥生土器・土師器・須恵器	弥生時代～古墳時代後期	1面	
Tr 9	2×9.8	19.6	SD 1	-	-	⑥・⑨層(褐色土～黒褐色土)	土師器	不明	表土	土師器・鉄滓	古墳時代前期?	2層2面	⑨層上面・⑨層下面?
			P 1	土師器	古墳時代前期	⑨層(黒褐色土)	弥生土器	弥生時代後期					
Tr10	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1面	
Tr11	2×6	12	-	-	-	-	-	-	表土	弥生土器	弥生時代後期	1面	
Tr12	1×5.7	5.7	SS 1	土師器・黒曜石	古墳時代前期	-	-	-	-	-	-	1面	⑦層上面
面積合計		222.9											

(黒褐色土)下面を遺構検出面とする。また、③・④層(にぶい褐色土)が包含層であることを確認した。③・④層は、遺物を包含するものの極小片であり、明確な帰属時期を決めるのは困難だが、おそらく縄文時代もしくは弥生時代のものであろう。

なお、トレンチ西端部の表土(①層)中より、拳大から人頭大の平石を中心とした礫が14点出土し、あたかも集石したような出土状況を示す。今回の調査ではこれらの礫に関連すると考えられる遺構は検出していないが、トレンチ周辺に存在する可能性もある。以下、検出した遺構について概要を述べる。

SK 1 は、③層除去後、⑩層上面において検出した。平面隅丸方形を呈すと推定する。規模は、長軸約2.8m以上、短軸約1.6m、深さは約12cmを測る。埋土は灰褐色土の単層である。遺物は出土していない。本遺構の帰属時期は不明である。

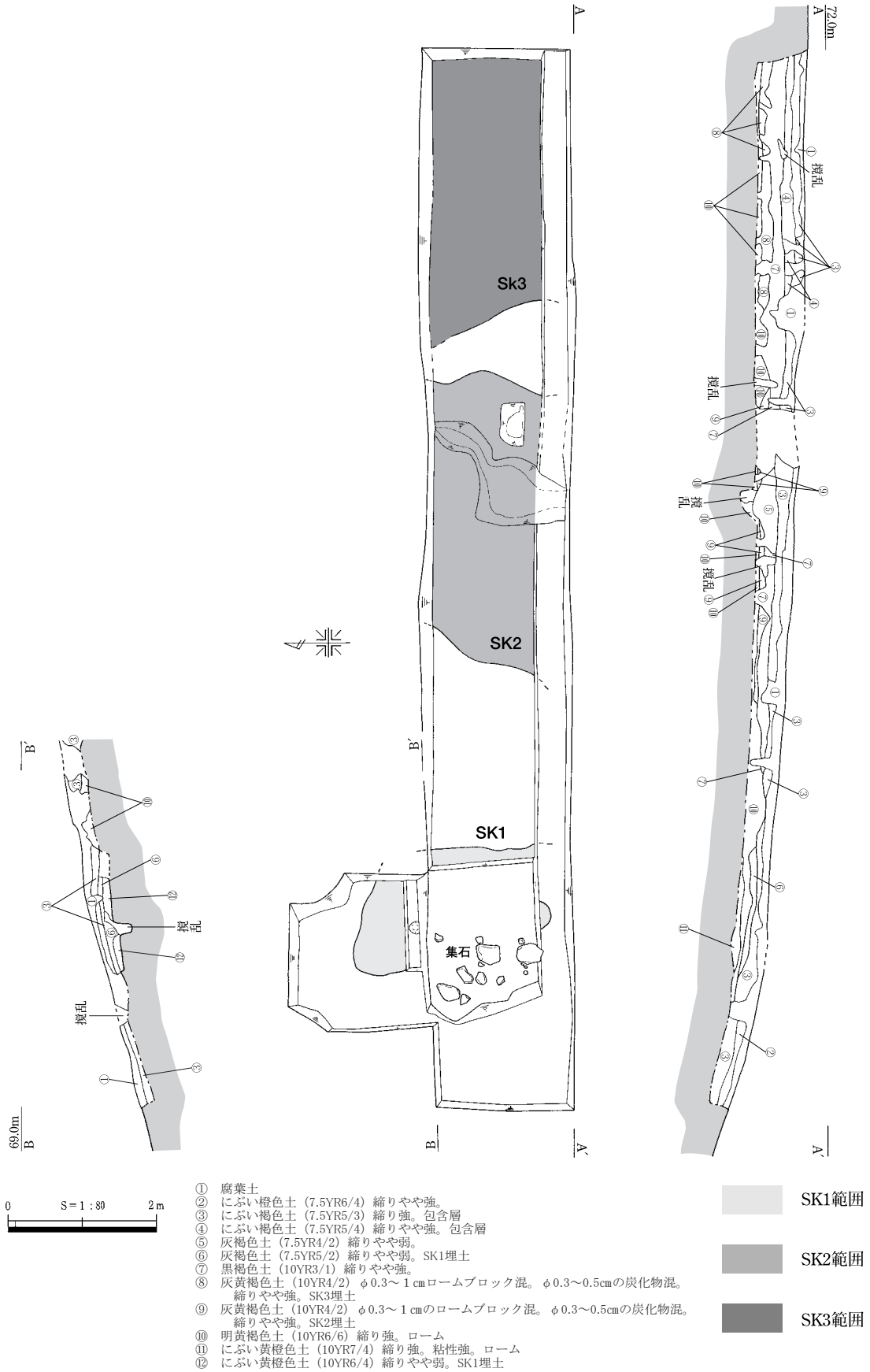
SK 2・3 は、⑦層除去後、⑩層上面において検出した。ともに平面円形を呈すと推定する。埋土は灰黄褐色土である。SK 2 の規模は、径約4.9m、深さは約11cmを測る。SK 3 の平面規模は不明だが、SK 2 同様、大型の土坑と思われ、深さは約16cmを測る。ともに遺物の出土はなく、遺構の帰属時期は不明である。

Tr9 (第102図、表38、PL.63)

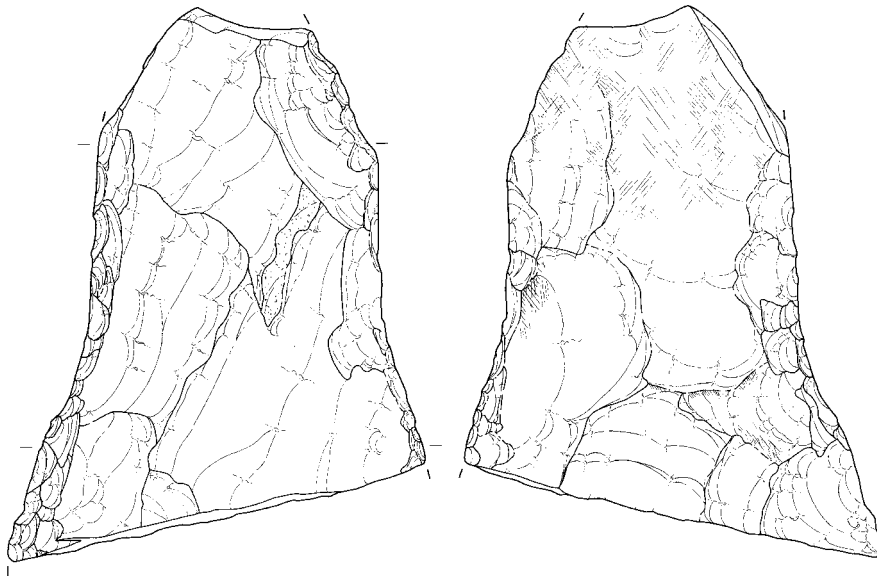
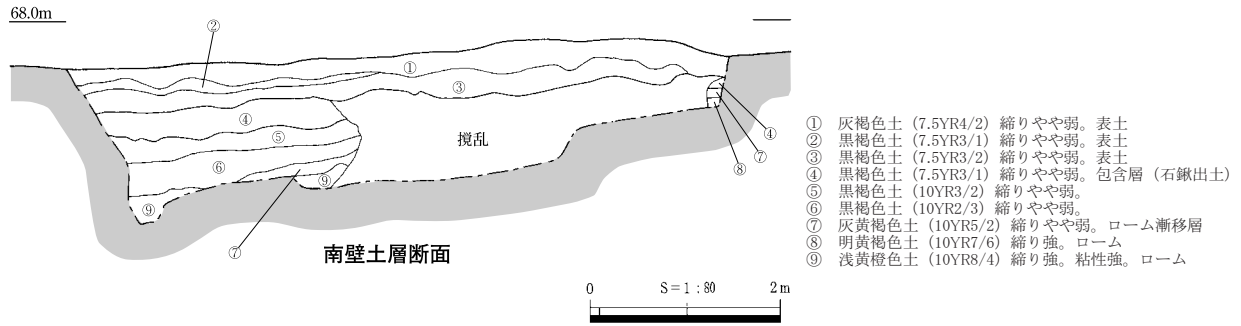
Tr9 は小規模な谷地形に設定した。溝状遺構1条、ピット1基を検出した。これらの遺構は、⑨層上面を遺構検出面とする。また、⑤・⑨層が包含層であることを確認した。⑤層(褐灰色土)は古墳前期、⑨層(黒褐色土)は弥生時代後期のものである。なお、堆積状況を確認するために掘削したサブトレンチ内においては、⑩層以下には遺物は出土していない。以下、遺構の概要を述べる。

SD 1 は、⑨層上面に検出した。幅約39cm、深さ約13cmを測る。埋土は、暗褐色シルトであり、滞水していた可能性がある。遺物は出土していない。本遺構は、Tr9 の堆積状況から判断し、弥生時代後期から古墳時代前期に帰属すると考える。

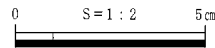
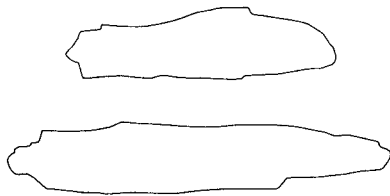
P 1 は、⑨層上面において検出した。径約34cm、深さ約14cmを測る。埋土は、暗褐色土である。遺



第99図 Tr 1

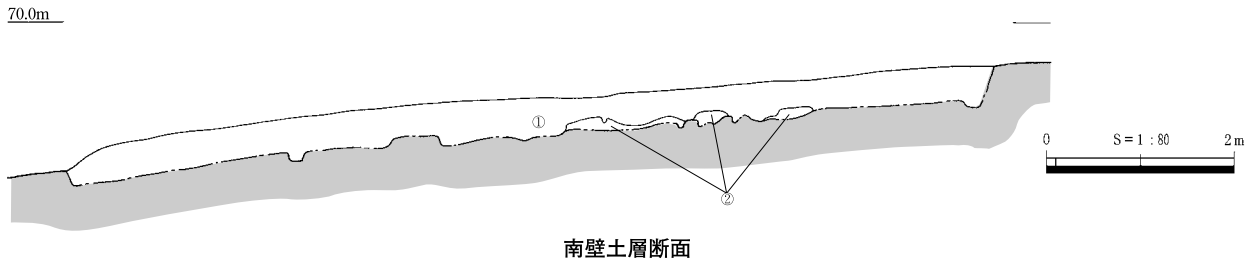


S1

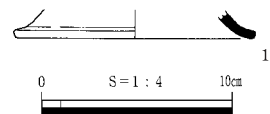


④層出土遺物

第100図 Tr6



- ① にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 縮り強。
- ② 黄橙色土 (10YR7/6) 縮り強。粘性強。ローム



表土出土遺物

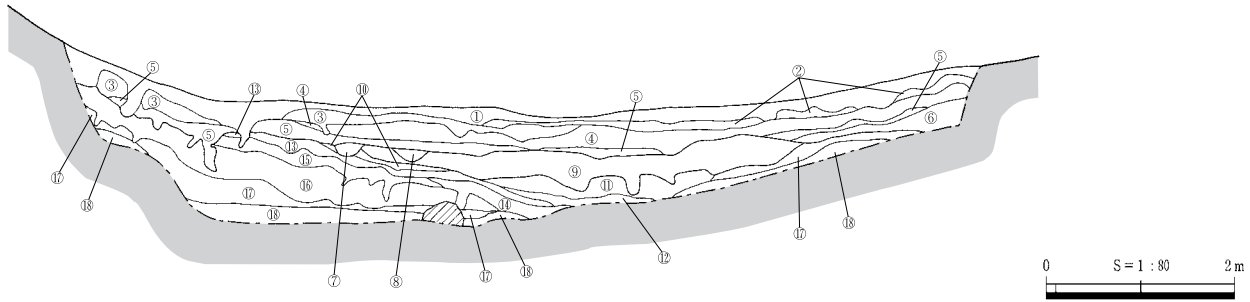
第101図 Tr8

物は土師器小片が出土した。本遺構の帰属時期は古墳時代前期と考える。

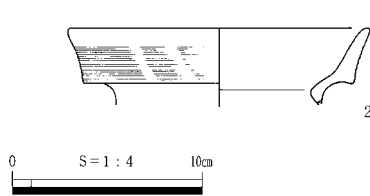
Tr12(第103図、表38、PL.63)

Tr12は丘陵斜面部に設定し、段状遺構1基を検出した。SS1は、⑦層上面において検出し、深さは約45cmを測る。埋土は褐灰色土とにぶい黄褐色土が主体である。遺物は、④層より土師器甕(3)、⑥層より黒曜石の剥片が出土した。本遺構の帰属時期は、古墳時代前期と考える。

63.6m



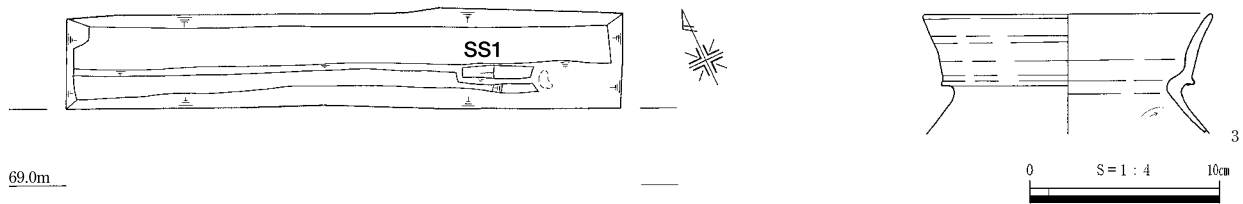
南壁土層断面



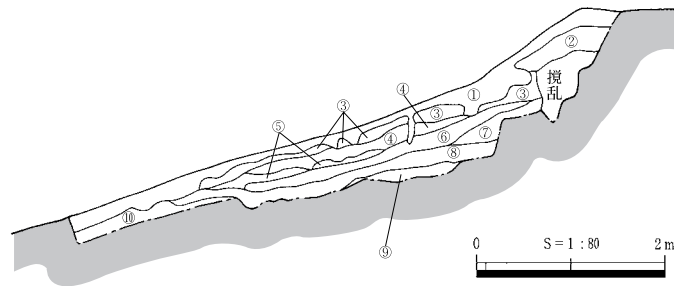
⑨層出土遺物

- ① 腐葉土
- ② にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 縮りやや弱。
- ③ にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 縮りやや弱。
- ④ 灰黄褐色土 (10YR4/2) 縮り弱。
- ⑤ 褐灰色土 (10YR4/1) 縮り弱。古墳時代前期包含層
- ⑥ 灰黄褐色土 (10YR5/2) φ 0.3~0.5cmの礫混。縮りやや強。
- ⑦ 暗褐色土 (10YR3/3) 縮りやや強。P1埋土
- ⑧ 暗褐色シルト (10YR3/3) φ 0.3cmの礫多混。縮りやや強。SD1埋土
- ⑨ 黒褐色土 (10YR3/1) φ 0.3~0.5cmの礫混。縮りやや強。弥生時代後期包含層
- ⑩ 褐灰色土 (10YR4/1) 縮り強。
- ⑪ 灰褐色土 (7.5YR4/2) 縮りやや強。
- ⑫ 褐灰色土 (7.5YR4/1) 縮りやや強。
- ⑬ にぶい黄褐色土 (10YR4/3) φ 0.3~0.5cmの礫少量混。縮りやや強。
- ⑭ 暗褐色土 (10YR3/3) φ 0.3~0.5cmの礫混。縮りやや強。
- ⑮ 暗褐色土 (10YR3/4) 縮りやや強。
- ⑯ 黒褐色土 (7.5YR3/1) φ 0.3~0.5cmの礫混。縮りやや強。
- ⑰ 黒褐色土 (10YR3/2) φ 0.3~1cmの礫混。縮り強。
- ⑱ 褐色土 (7.5YR4/3) φ 0.3cm~人頭大の礫混。縮り強。

第102図 Tr9



④層出土遺物



- ① 腐葉土
- ② 明黄褐色土 (10YR6/6) にぶい褐色土が斑状に混。造成土? 縮り強。
- ③ 褐色土 (10YR4/4) 縮り強。
- ④ 褐灰色土 (10YR5/1) 縮りやや強。
- ⑤ 黄褐色土 (10YR5/6) 縮りやや強。
- ⑥ にぶい黄褐色土 (10YR5/4) φ 0.3~0.5cmの炭化物粒少量混。縮りやや強。
- ⑦ 明褐色土 (7.5YR5/6) 縮りやや強。粘性強。ローム
- ⑧ にぶい黄褐色土 (10YR5/3) φ 1~4cmの地山岩盤礫混。縮りやや強。
- ⑨ にぶい黄褐色土 (10YR7/4) 縮りやや強。
- ⑩ 岩盤

第103図 Tr12

表38 豊成上金井谷峰遺跡土器観察表

No.	トレンチ 遺構名 層位名	挿図 PL.	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	Tr8 遺構外 表土	第101図 PL.63	須恵器 高坏	底径12.6※ 器高1.5△	外面ナデ。自然釉。 内面ナデ。	密	良	外面暗灰色 内面灰色	
2	Tr9 遺構外 ⑨層	第102図 PL.63	弥生土器 甕	口径15.9※ 器高4.0△	外面ナデ。口縁部端面8条沈線。 内面口縁部ナデ。頸部ケズリ後ナデ。	密	良	外面にぶい黄橙色 内面浅黄橙色	
3	Tr12 SS1 ④層	第103図 PL.63	土師器 甕	口径15.2※ 器高6.3△	外面ナデ。 内面口縁部ナデ。頸部以下ケズリ後ナデ。	密	良	内外面浅黄色	

表39 豊成上金井谷峰遺跡石器観察表

No.	トレンチ 遺構名 層位名	挿図 PL.	種類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	備考
S1	Tr6 遺構外 ④層	第100図 PL.63	石楯	安山岩	14.6	11.1	2.3	350	刃部側の大部分と基部の一部を欠失。板状に割られた素材の周縁を加工することにより整形。表裏ともに素材面を大きく残す。基部の両側縁と裏面に磨減が認められる。着柄に伴う痕跡か。刃部側の稜線の磨減は使用に伴うものか。

第7節 松河原上奥田第2遺跡の調査

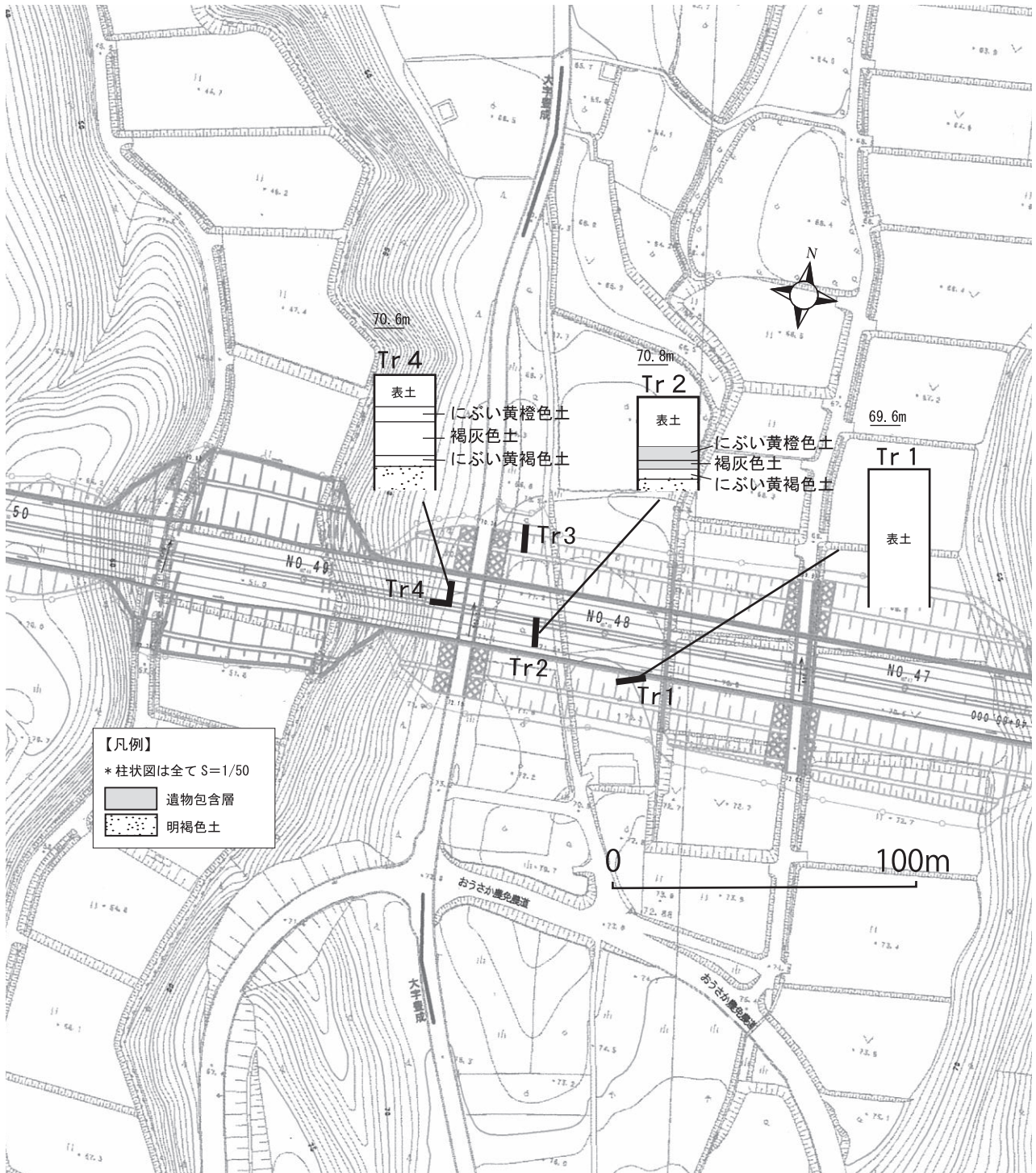
調査地点 大山町松河原字上奥田1228-1他

調査期間 平成20年9月30日～平成20年10月17日

調査面積 85.4㎡

調査概要 (第104～106図、表40～42、PL.63・64)

松河原上奥田第2遺跡は、大山北麓から日本海へ向けて派生する丘陵上及び谷部に所在する。地表面の標高は、約68～71mである。地目は、山林・畑地・水田である。調査は、開発予定地に4本の



第104図 松河原上奥田第2遺跡トレンチ位置図及び基本層序

トレンチを設定し行った(表40)。Tr1～4では、遺構は検出していないものの、Tr4において縄文時代の包含層が現存することを確認した。

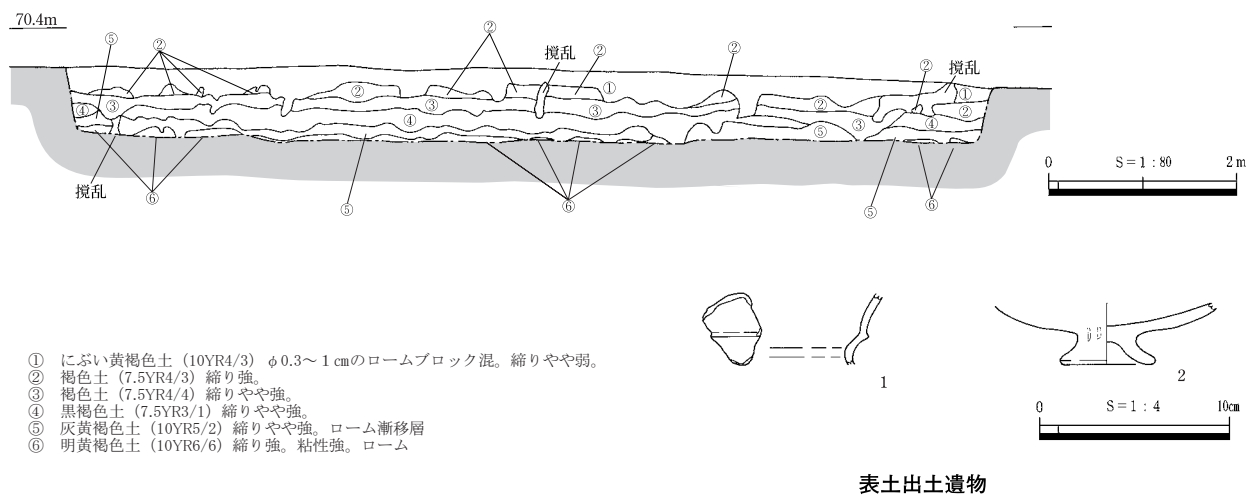
Tr1は丘陵東側の谷部に設定した。現況は水田として土地利用される。耕作土及び造成土を地表面より約1.6mまで掘削を行ったが、湧水が著しいため、ここで調査を終了した。

Tr2・3は丘陵平坦面に設定した。現況は果樹の栽培が行われていた。遺物は、Tr2の①層(耕作土)中より弥生土器の小片が出土した。Tr3は、①層(耕作土)より弥生土器・土師器・須恵器の小片が出土している。土師器甕(1)と、土師器低脚坏(2)を図化した。いずれも、古墳時代前期に比定される資料と考える。なお、Tr2・3は比較的良好似た堆積状況を示し、いずれのトレンチにも黒褐色土の堆積を確認した。黒褐色土からは遺物は出土していない。

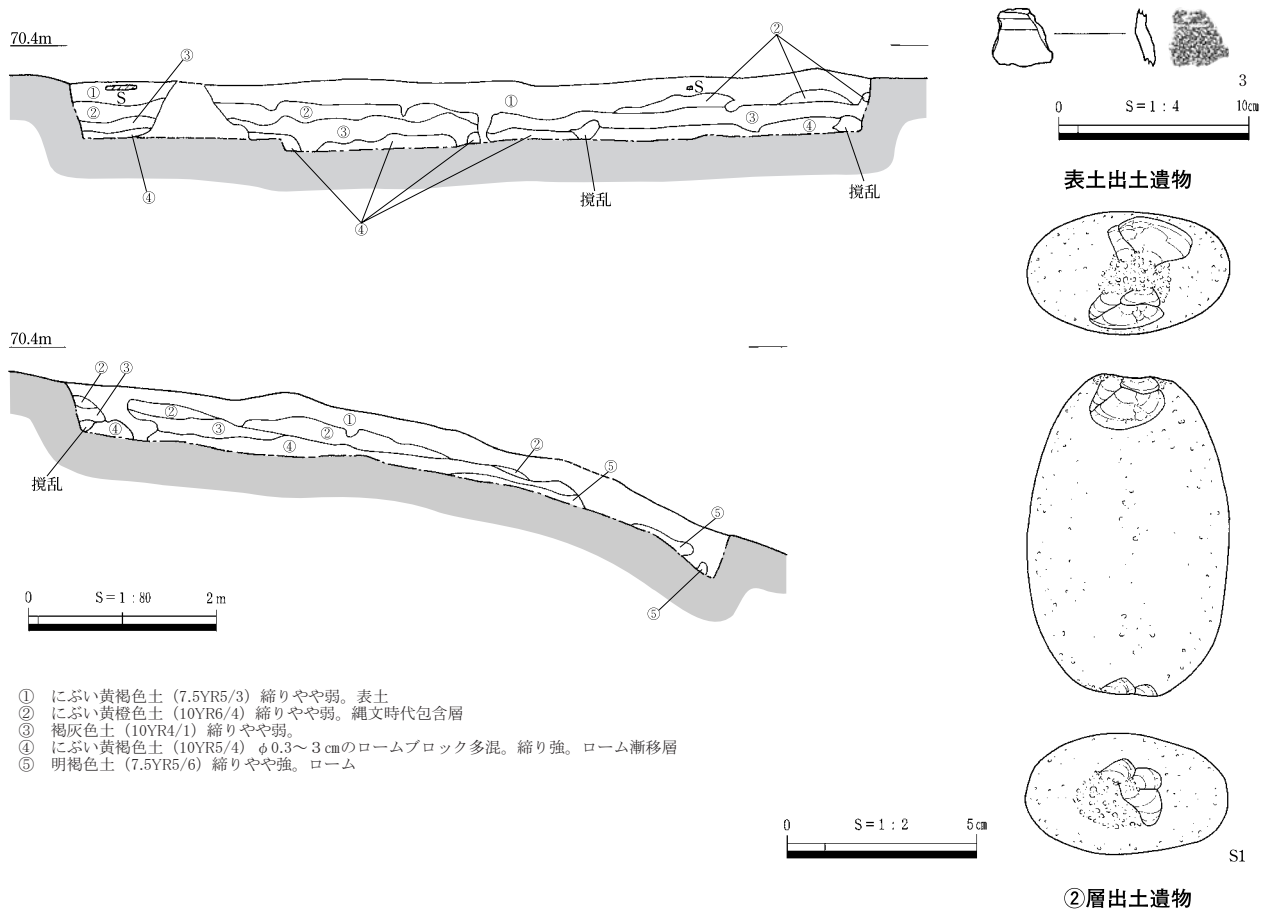
Tr4は、丘陵西側の傾斜変換点から斜面にかけての山林部に設定した。堆積状況は、等高線に対して並行及び直交方向の2方向について記録した。包含層である②層からは、縄文土器(3)が出土した。3は鉢の胴部片であり、外面の上位はナデ、下位は縄文が施される。表土からは、弥生土器のほか敲石(S1)が出土した。

表40 松河原上奥田第2遺跡トレンチ一覧

トレンチ名	規模(m)	面積(m ²)	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物			確認した遺構面数等	備考
			遺構名	出土遺物	遺構の時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期		
Tr1	2×10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Tr2	2×10	20	-	-	-	-	-	-	①層	弥生土器	弥生時代	2層2面	
Tr3	2×9.8	19.6	-	-	-	-	-	-	①層	弥生土器・土師器・須恵器	弥生時代後期～古墳時代後期	2層2面	
Tr4	2×8.5 1.6×5.5	25.8	-	-	-	②層	縄文土器	縄文時代	①層	弥生土器・土師器・須恵器・敲石	弥生時代	1層1面	
面積合計		85.4											



第105図 Tr3



第106図 Tr4

表41 松河原上奥田第2遺跡土器観察表

No.	トレンチ 遺構名 層位名	挿図 PL.	種類 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	Tr3 遺構外 表土(耕作土)	第105図 PL.63	土師器 甕	器高3.9△	内外面口縁部ナデ。	密 (径約1~2 mmの砂粒を含 む。)	良	内外面淡黄色	
2	Tr3 遺構外 表土(耕作土)	第105図 PL.64	土師器 低脚杯	底径4.8※ 器高3.3△	外面坏部ナデ。脚部上位ミガキ、下位ナデ。 内面ナデ。	普 (砂粒を多く 含む。)	良	内外面浅黄橙色	
3	Tr4 遺構外 ②層	第106図 PL.63	縄文土器 鉢	器高3.0△	外面胴部上位ナデ、下位縄文(LR)。 内面ナデ。	密 (砂粒を含 む。)	良	外面にぶい黄褐色 内面灰黄褐色	

表42 松河原上奥田第2遺跡石器観察表

No.	トレンチ 遺構名 層位名	挿図 PL.	種類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	最大厚(g)	備考
S1	Tr4 遺構外 表土	第106図 PL.64	敲石		8.5	5.4	3.25	191	小型の長楕円形礫を素材とする。上下両 端に敲打痕と使用に伴う割れが認めら れる。